

# 選択的評価事項に係る評価

## 自己評価書

令和2年8月

舞鶴工業高等専門学校

- ・ 自己点検・評価結果欄の各項目のチェック欄で「・・・していない」等にチェック（■）した場合は、自己点検・評価の根拠資料・説明等欄に、その理由等を記述すること。
- ・ （該当する選択肢にチェック■する。）と記載のある項目は、該当する箇所のみチェックを入れること。選択肢全てにチェックを入れる必要はない。
- ・ 自己点検・評価の根拠資料・説明等欄の記号は次のとおり。
  - ◇：明示している根拠資料については、該当資料名、資料番号を記入すること。資料は、該当箇所がわかるように（行の明示、下線や囲み線を引くなど）して、まとめて自己評価書「根拠資料編」として作成すること。資料を、ウェブサイト等で公表している場合には、ウェブサイト公表資料と付した上で、該当資料名、資料番号を記入し、そのリンク先を欄中に貼付すること。
  - ◆：資料等を基に自己点検・評価の項目に係る状況を記述すること。（取組や活動の内容等の客観的事実について具体的に記述し、その状況についての分析結果をその結果を導いた理由とともに記述。）記述は、できるだけ簡潔にし、分量は、200字程度を目安とすること。なお、「・・・場合は、」とあるものについては、該当する場合のみ記述すること。また、根拠資料の資料名、資料番号を記入すること。
- ・ 関係法令の略は次のとおり。

(法)学校教育法、(設)高等専門学校設置基準

## I 高等専門学校の現況及び特徴

(1) 現況	
1. 高等専門学校名	舞鶴工業高等専門学校
2. 所在地	京都府舞鶴市字白屋234番地
3. 学科等の構成	準学士課程：機械工学科，電気情報工学科，電子制御工学科，建設システム工学科 専攻科課程：総合システム工学専攻
4. 認証評価以外の第三者評価等の状況	特例適用専攻科（専攻名：総合システム工学専攻） JABEE認定プログラム（専攻名：総合システム工学専攻） その他（なし）
5. 学生数及び教員数 （評価実施年度の5月1日現在）	学生数：846人 教員数：専任教員56人 助手数：0人
(2) 特徴	
<p>舞鶴工業高等専門学校（以下本校という）は、昭和40年度に機械工学科2学級と電気工学科1学級で発足した。昭和45年度に土木工学科1学級を増設、平成2年度には機械工学科2学級を機械工学科と電子制御工学科に改組、平成6年度に土木工学科を建設システム工学科に改組した。平成16年度に独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する高等専門学校となるとともに、電気工学科を電気情報工学科に名称変更した。また、平成12年度には、高専卒業生に対して、より高度な専門知識及び技術を修得する課程として、電気・制御システム工学専攻と建設・生産システム工学専攻の2専攻からなる専攻科を設置した。平成27年度に、融合複合技術に対応した学修を行うシステムとするために、専攻科を総合システム工学専攻3コース（電気電子システム工学、機械制御システム工学、建設工学）に改組した。</p> <p>平成16年度に本校準学士課程4,5年生と専攻科課程で構成される「生産・情報基礎工学」教育プログラムがJABEE認定を受けている。また専攻科の改組にともない、平成27年度以降は「総合システム工学」教育プログラムが認定を受けて現在に至っている。なお、平成28年度より特例の適用認定を受けた専攻科となっている。</p> <p>本校の学生は京都府をはじめ兵庫、滋賀、福井、大阪などの広範囲の地域から入学しており、全国高専でも有数の大規模寮を有し、在学生の70%以上が学寮生活を営んでいる。そのため、本科1,2年生を全寮制として遠隔地からの入学に配慮している。また、親元を離れて暮らす学生の支援として、平成18年度から全教員が数名の1年生を分担し、相談窓口となるパートナーシップ制度を導入している。遠隔地からの入学者が多いことに配慮し、保護者で構成されている後援会との連携を強化しており、毎年夏休み期間に後援会支部が開催する懇談会に校長、副校長、三主事をはじめとする学校関係者が出席し、保護者からの要望を直接聴取するとともに、本校の教育を改善するための意見交換が行われている。準学士課程卒業生の進路において、就職と進学の比はおよそ6対4である。就職先としては、京阪神に拠点を構える企業が中心であり、進学先としては国公立大学がほとんどである。専攻科に進学する学生もおり、修了生は大学院にも進学している。</p> <p>本校の教育の特徴として、広い視野を獲得し多くの友人を作ることを目的として、本科1,2年生には混合教育を導入している。令和元年度入学の学生より新カリキュラムが導入されることに伴い、単位認定のない授業時間を設定し、学生たちの主体的な学習の取り組みを促している。また、豊かな教養と国際性を育むため、4年生全員が研修旅行でタイ、台湾、ベトナム、マレーシアの協定校及び日系企業に訪問し、5年生と専攻科生には海外の企業や協定校でインターンシップを行う機会を与えている。一方、海外協定校からインターンシップ生を受け入れ、世界市民の自覚を学生に促している。後援会から受験料の補助を受け、本科3,4年生と専攻科1年生に対し、TOEIC団体受験を義務付け、その他の学年の希望者に対してはTOEIC Bridge（本科1,2年生）またはTOEIC（本科5年生と専攻科2年生）の団体受験を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の向上を図っている。</p> <p>「産業の発展に寄与すること、並びに北近畿地域の教育、文化の基盤を支える」ために地域と連携した事業に取り組んでいる。平成25年度から京都工芸繊維大学と共同で申請した地（知）の拠点整備事業（COC）に採択され、地域志向の取り組みが定着した。さらに、平成27年度からは京都工芸繊維大学を中心とする地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）に採択され協働して事業を推進している。平成25年度には、丹後機械工業共同組合と産学連携に関する協定を締結し、共同研究やインターンシップを推進している。また同年には社会基盤メンテナンス教育センターを設置し、民間技術者や地方自治体職員に対してインフラの維持管理に関する教育を行っている。平</p>	

成 26 年度には、舞鶴高専地域テクノアカデミアを設立し、地元自治体及び地元企業との連携強化を図った。平成 30 年度には、舞鶴市・KDDI 株式会社と地域活性化を目的とした連携協定を締結し、ICT を駆使して舞鶴市が現在抱える課題の解決に取り組んでいる。令和元年度より、理系の才能を開花させる機会を待っている北近畿地方の小中学生たちに、科学技術との触れ合いや高度な研究課題への取り組みの機会を提供する、ジュニアドクター育成塾「多自然居住地域における理工系人材の発掘と世界に羽ばたく人材育成プログラム」を開始した。その他、地域の小中学生と保護者を対象に公開講座などを開催し、理科離れ対応と、高専の認知度向上に努めている。

学生の課外活動も活発で、ロボコン、プロコン、エコラン、デザコンと称される高専学生対象の競技会で、全国大会に継続的に出場している。学校祭である高専祭は、毎年開催され、9 月後半より学生達は準備を行っている。2 日間の高専祭期間中には約 3500 人の入場者があり、地域の方々に楽しんでもらっている。

## II 目的

### 1. 目的

#### 1. 1 本校の目的（舞鶴工業高等専門学校学則第1条）

舞鶴工業高等専門学校は、教育基本法及び学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とし、その目的を実現するための教育を行いその成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

#### 1. 2 準学士課程の目的（舞鶴工業高等専門学校学則第11条の2）

準学士課程は、専門分野の基礎知識を修得し、社会の変化やニーズに対応した製品やシステムをつくり出す能力と、豊かな人間性・国際性を兼ね備えた実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

#### 1. 3 各学科の人材養成の目的（舞鶴工業高等専門学校学則第12条の2）

##### 【機械工学科】

あらゆるものづくりの基盤となる、機械工学の基礎知識と技術を習得し、環境とエネルギーに配慮できる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

##### 【電気情報工学科】

電気・電子工学及び情報・通信工学分野の基礎知識と技術を習得し、環境とエネルギーに配慮できる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

##### 【電子制御工学科】

電子・機械システム及び制御・情報技術を幅広く習得し、それらを融合したメカトロニクス技術分野において、環境とエネルギーに配慮した設計・開発・管理運営ができる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

##### 【建設システム工学科】

安全で快適な社会の創造とそのため基盤を、設計・建設・維持する基礎知識と技術を習得し、環境とエネルギーに配慮できる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

#### 1. 4 専攻科課程の目的（舞鶴工業高等専門学校学則第40条）

専攻科課程は、高等専門学校の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門知識及び技術を教授し、その研究を指導することを目的とする。

#### 1. 5 専攻科課程の教育目的（「専攻科学習の手引き・シラバス」前付）

専攻科は、5年間にわたる一貫した実践教育の特徴を生かしながら、更に2年間の課程において、高度の学問と技術を追求し、創造性・人間性豊かで、より独創的技術開発能力を兼ね備えた中核的技術者の育成を目的とする。

##### 【電気電子システム工学コース】

本校の電気情報工学科、または電子制御工学科で修得した、もしくはこれらと同等の基礎学力と専門知識に基づき、電気・電子工学、情報・通信工学、制御工学等に係わる、より高度で実践的な最新の技術教育を行い、電気電子物性および電力・制御・情報通信システム等の分野で活躍し、地域の発展のために地域社会に貢献できる独創性豊かな研究開発型の技術者の育成を目指します。

##### 【機械制御システム工学コース】

本校の機械工学科、または電子制御工学科で修得した、もしくはこれらと同等の基礎学力と専門知識に基づき、先端材料、流体工学、熱工学、制御技術およびメカトロニクス等に係わる、より高度で実践的な最新の技術教育を行い、機械システム、制御システム等の分野で活躍し、地域の発展のために地域社会に貢献できる独創性豊かな研究開発型の技術者の育成を目指します。

##### 【建設工学コース】

本校の建設システム工学科で修得した、もしくはこれらと同等の基礎学力と専門知識に基づき、構造・耐震、建設材料、地盤、水圏環境、防災、まちづくり、建築設計、建設環境、建設計画等に係わる、より高度で実践的な最新の技術教育を行い、環境やエネルギーに配慮した自然災害に強い安全な社会基盤および建築物の設計・施工・維持管理等

の分野で活躍し、地域の発展のために地域社会に貢献できる独創性豊かな研究開発型の土木・建築技術者の育成を目指します。

2. 教育理念（「学生便覧」前付）

広く工学の基礎と教養を身につけ、問題発見・解決能力、創造力を有し、地域・社会の発展に寄与できる国際感覚豊かな実践的開発型技術者を育成する。

3. 教育方針（「学生便覧」前付）

- I 実験・実習、演習、ものつくりを重視する
- II 基礎に立ち返って考えさせる
- III 自ら学ぼうとする意欲を育てる
- IV 豊かな教養と国際性を育む

Ⅲ 選択的評価事項の自己評価等

選択的評価事項A 研究活動の状況

<p><b>評価の視点</b></p> <p>A-1 高等専門学校の研究活動の目的等に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていること。</p>	
<p>観点A-1-① 研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第2条第2項</p>
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 研究活動に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。</p> <p>■定めている</p> <p>□定めていない</p>	<p>◇定めていることがわかる資料</p> <p>資料 A-1-1-(1)-01 「研究活動の目的を示す資料」</p>
<p>観点A-1-② 研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観点A-1-①の研究活動に関する目的、基本方針、目標等を達成するための、実施体制、設備等を含む研究体制及び支援体制の整備状況・活動状況について分析すること。</li> <li>○ 実施体制の整備については、研究に携わる教員等の配置状況、センター等設置状況を示すこと。</li> <li>○ 研究活動状況については、共同研究等、他研究機関や地域社会との連携体制及びその機能状況等の具体例を示すこと。</li> </ul>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第2条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための実施体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇目的等ごとに、実施体制が整備されていることがわかる資料</p> <p>資料 A-1-2-(1)-01 「実施体制を示す資料（企画室）」</p> <p>資料 A-1-2-(1)-02 「実施体制を示す資料（地域共同テクノセンター）」</p> <p>資料 A-1-2-(1)-03 「実施体制を示す資料（知的財産委員会）」</p> <p>資料 A-1-2-(1)-04 「実施体制を示す資料（生命倫理委員会）」</p>
<p>(2) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための設備等を含む研究体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇目的等ごとに、研究体制が整備されていることがわかる資料</p> <p>資料 A-1-2-(2)-01 「研究体制を示す資料（社会基盤メンテナンス教育センター）」</p> <p>資料 A-1-2-(2)-02 「研究体制を示す資料（社会基盤メンテナンス教育センターHP）」</p> <p>資料 A-1-2-(2)-03 「研究体制を示す資料（ナノテクノロジー教育センター）」</p>

	資料 A-1-2-(2)-04 「研究体制を示す資料（研究・技術シーズ集）」 資料 A-1-2-(2)-05 「研究設備を示す資料（設備一覧）」
(3) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	◇目的等ごとに、支援体制が整備されていることがわかる資料 資料 A-1-2-(3)-01 「支援体制を示す資料（教育研究支援センター運営委員会）」 資料 A-1-2-(3)-02 「支援体制を示す資料（事務組織）」 資料 A-1-2-(3)-03 「研究活動の支援を示す資料（研究グループ形成支援事業）」 資料 A-1-2-(3)-04 「研究活動の支援を示す資料（科研費説明会）」
(4) (1)～(3)の体制の下、研究活動が十分に行われているか。 ■行われている □行われていない	◇研究活動の実施状況がわかる資料 資料 A-1-2-(4)-01 「研究活動の状況（研究成果発表状況）」 資料 A-1-2-(4)-02 「研究活動の状況（社会基盤メンテナンス教育センター）」 資料 A-1-2-(4)-03 「研究活動の成果を示す資料（ナノテクノロジー教育センター）」 資料 A-1-2-(4)-04 「研究活動の状況（研究グループ）」
観点 A-1-③ 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。	
【留意点】 ○ 研究活動の目的等に照らして、どの程度活動の成果があげられているか、目的の達成度について実績等を示すデータ等を提示すること。 ○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、目的に照らした研究の成果及び目的の達成度について資料を提示すること。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校が設定した研究活動の目的等に照らして、成果が得られているか。 ■得られている □得られていない	◇目的等ごとに、活動の成果がわかる資料 （再掲）資料 A-1-2-(4)-01 「研究活動の状況（研究成果発表状況）」 資料 A-1-3-(1)-01 「外部資金獲得状況」 資料 A-1-3-(1)-02 「研究成果を教育に還元していることがわかる資料」
観点 A-1-④ 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。	
【留意点】 ○ 組織の役割、人的規模・バランス、組織間の連携・意思決定プロセス・責任の明確化等がわかる資料を提示すること。 ○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。 ○ 研究活動等の実施状況や問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 観点A-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	◇改善の体制がわかる資料 資料 A-1-4-(1)-01「舞鶴高専の自己点検・評価に関する方針」 資料 A-1-4-(1)-02「改善のための体制を示す資料（評価委員会）」 資料 A-1-4-(1)-03「改善のための体制を示す資料（外部評価委員会）」 資料 A-1-4-(1)-04「改善のための体制を示す資料（企画室）」 資料 A-1-4-(1)-05「改善のための体制を示す資料（地域共同テクノセンター）」 資料 A-1-4-(1)-06「具体的な改善事例を示す資料（校務連絡会議議事概要）」 ◆学校が設定した研究活動の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。 研究グループの設置に関する取組み 2019年度より、本校の研究活動の活性化、外部資金獲得の大幅向上を目的として、研究グループの形成および研究グループによる外部資金獲得に向けた必要経費に対して支援を行う「研究グループ形成支援事業」（資料 A-1-2-(3)-03, 資料 A-1-2-(4)-04）が開始された。この事業は、新たな研究活動の活性化に対する取り組みとして校務連絡会（企画室の前身）にて校長から発案（資料 A-1-4-(1)-06）され、地域共同テクノセンターがその事業化について実務を担当し実施された。
<b>A-1 特記事項</b> この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
外部資金を活用したプロジェクトに積極的に取り組み、優れた成果をあげている。例えば、平成30年度 KOSEN4.0 イニシアティブ事業として「地域に存在する重要課題を通して育成する課題解決力の高い社会実装型技術者育成プログラム～防災を含む原子力教育をベースとして～」が採択され、舞鶴高専全体の取り組みとして「地域エネルギー・防災教育研究センター」を設置し、防災や原子力教育に関する研究および教材開発を行った。その成果は成果報告会（資料 A-1-特-01）や報告書（資料 A-1-特-02）によって社会に還元されるとともに、本校における技術者教育にも活用されている。 資料 A-1 特-01_「KOSEN4.0 イニシアティブ成果報告会」 資料 A-1 特-02_「KOSEN4.0 イニシアティブ報告書」	

選択的評価事項A 目的の達成状況の判断
<input type="checkbox"/> 目的の達成状況が非常に優れている <input checked="" type="checkbox"/> 目的の達成状況が良好である <input type="checkbox"/> 目的の達成状況がおおむね良好である <input type="checkbox"/> 目的の達成状況が不十分である



**選択的評価事項 A**

**優れた点**

学内研究グループの形成支援や地域テクノセンターを中心とした各種センターの研究活動など、研究のための教員間連携を積極的に推進する体制が構築され、外部資金獲得においてもその体制は有効に機能している。

**改善を要する点**

該当なし

## 選択的評価事項B 地域貢献活動等の状況

<b>評価の視点</b>	
B-1 高等専門学校の地域貢献活動等に関する目的等に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、活動の成果が認められていること。	
観点B-1-① 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。	
関係法令	(法)第107条 (設)第21条
【留意点】	
○ なし。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。 ■定めている □定めていない	◇定めていることがわかる資料 資料 B-1-1-(1)-01 「地域貢献活動の目的を示す資料」
観点B-1-② 地域貢献活動等の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。	
【留意点】	
○ 実施体制について分析することは必須ではない。	
関係法令	(法)第107条 (設)第21条
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校が設定した地域貢献活動等について、具体的な方針を策定しているか。 ■策定している □策定していない	◇具体的な方針が策定されていることがわかる資料 資料 B-1-2-(1)-01 「方針を策定することを示す資料（企画室）」 資料 B-1-2-(1)-02 「方針を策定することを示す資料（地域共同テクノセンター）」 資料 B-1-2-(1)-03 「具体的な方針を策定していることを示す資料」
(2) (1)の方針に基づき計画的に実施しているか。 ■実施している □実施していない	◇実施状況がわかる資料 資料 B-1-2-(2)-01 「地域貢献活動の実施を示す資料(地域共同テクノセンターの活動)」 資料 B-1-2-(2)-02 「地域貢献活動の実施を示す資料(舞鶴市、KDDI と連携協定)」 資料 B-1-2-(2)-03 「公開講座・出前授業の実施を示す資料」 資料 B-1-2-(2)-04 「地域貢献活動の実施を示す資料（地域テクノアカデミア）」
観点B-1-③ 地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。	
【留意点】	
○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、活動の成果がわかる資料を提示すること。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校が設定した地域貢献活動等の目的等に照らして、成果が認められるか。 <input checked="" type="checkbox"/> 認められる <input type="checkbox"/> 認められない	◇活動の成果がわかる資料（活動別参加者数、参加者・利用者アンケート等） 資料 B-1-3-(1)-01「地域貢献活動の成果を示す資料（地域貢献活動実績）」 資料 B-1-3-(1)-02「地域貢献活動の成果を示す資料（公開講座・出前授業アンケート結果）」 資料 B-1-3-(1)-03「地域貢献活動の成果を示す資料（地域テクノアカデミア）」
観点B-1-④ 地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。	
【留意点】 ○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。 ○ 地域貢献活動等に関する問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 観点B-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	◇改善の体制がわかる資料 資料 B-1-4-(1)-01「舞鶴高専の自己点検・評価に関する方針」 資料 B-1-4-(1)-02「改善のための体制を示す資料（評価委員会）」 資料 B-1-4-(1)-03「改善のための体制を示す資料（外部評価委員会）」 資料 B-1-4-(1)-04「改善のための体制を示す資料（企画室）」 資料 B-1-4-(1)-05「改善のための体制を示す資料（地域共同テクノセンター）」 資料 B-1-4-(1)-06「具体的な改善事例を説明する資料（地域共同テクノセンター運営委員会議事概要）」 資料 B-1-4-(1)-07「具体的な改善事例を説明する資料（公開講座チラシ）」 ◆学校が設定した地域貢献活動等の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。 従来の公開講座の実施については学科・部門を中心とした学内の各部署から計画の申請があり、地域共同テクノセンター運営委員会による承認を経て実施されていたが、開催時期や内容に偏りが生じるなどの問題があった。そこで、より効果的に実施するために地域共同テクノセンターで情報を集約し、年間スケジュールなどを管理して実施するよ

	うに改善した。(資料 B-1-4-(1)-06, 資料 B-1-4-(1)-07)。
<b>B-1 特記事項</b>	この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。
	地域に向けた活動として、平成 25 年度から始まった文部科学省「地(知)の拠点」COC 事業、および平成 27 年度からは COC+事業に採択され、地域の小中学校、一般市民、企業技術者などを対象とした多数の出前授業・公開講座を実施するとともに地域貢献活動を通じた人材育成の取り組みを実施している。これらの成果により、本校の地域貢献活動が充実されるとともに、学生が公開講座の講師を務めるなど、学生とともに地域に貢献するという本校の目的が達成できているといえる。 資料 B-1-特-01「COC 事業概要」 資料 B-1-特-02「COC 事業報告(抜粋)」

<b>選択的評価事項 B 目的の達成状況の判断</b>
<input checked="" type="checkbox"/> 目的の達成状況が非常に優れている <input type="checkbox"/> 目的の達成状況が良好である <input type="checkbox"/> 目的の達成状況がおおむね良好である <input type="checkbox"/> 目的の達成状況が不十分である
<b>選択的評価事項 B</b>
<b>優れた点</b>
地域貢献に対して、小中学生や一般向けの公開講座や出前授業のみならず、舞鶴高専地域テクノアカデミアによる地域企業との連携活動、社会基盤メンテナンス教育センターによる技術者教育活動などを通して、近畿北部地域における数少ない高等教育機関としての役割を果たし、地域社会に大きく貢献している。
<b>改善を要する点</b>
該当なし